



「安全神話」

夏の終わりの台風は大きな傷跡を残していきました。

大野原町をはじめ西讃地域をおそった台風15号、私は観音寺に住んでいますが、この時には家は床下直前まで水がきて、道路が川になっていく様を感じました。高松で仕事が残っていたもので帰ったのが10時頃だったとおもいますが、もう家の回りには車で入れず、知人の家に車だけはおかしてもらい、川となった道をジャブジャブと歩いて帰りました。途中近所の家でも用水路からあふれだした水をなんとかくいとめようと土嚢を積んだり、すでに入ってしまった家の方はその水を少しでも外に流したそうと作業をされていました。市役所の方も見回りに来て頂きましたが、どうやら私のすんでいるところは地形的に低くなっているらしく水が流れやすいとのこと、あらためて感じたことですが、自分の住んでいる場所がどのような地形でどんな危険があるのかということをもっとく知らずに暮らしていたということを情けなく感じたものでした。そして台風16号。2004年の8月最後の日には忘れられない夏になった方も多いのではないのでしょうか。香川県における高潮の被害は戦後最大のものでした。その被害の大きさは想像を超えていました。8月31日火曜日は一日ラジオ中継担当の日でもあったため高潮の被害にあった高松市内の各所をまわりました。高松の中心外も朝から水をポンプでくみ上げたり、ぬれた床や事務

用品を外で乾かしたりを多くの方が作業をされていました、浜街道沿いの家からも多くの家財がだされていました。香西本町・西町は床上浸水の被害の多くあった地域です。汗だくになりながら家のかたづけにおわれる多くの人々、人の高さにまで積み上げられた畳におどろきました、昨日まで使っていた数々の道具、すべてがゴミとしてださなくてはいけない物です、橋の下には数台の消防車とポンプ車がきていましてあふれ出した海水をくみ出し海へともどしていました。被害にあわれた方にお話しを伺うと「高潮はアツという間にやって来た。どんどんと増す水位は本当におそろしかった。」と。

福岡町は1日たっても水が引かず通行止めの道路も各所にありました。道路の途中には止まったままの車も何台もあり、まるで池の中に車を取り残されているようにもみえました。停電も3日間も続きあふれ出した水の中を歩きまわり作業をした方の中には体調を崩された方もいたようです。

線路は水につかり土砂があふれていました。そして辻角にはゴミとしてださなくてはいけない日用品、家財道具が山のように積み上げられていました。まだ台風16号の傷がいえていないうちに9月7日には台風18号がやってきました。県内では被害の大きさからいえば、16号ほどではなかったとはいえ、「あーまたかぁ」と思われ方も多いはずです。16号の時に出されていたゴミ

つもちゃんの

ドク
バタ
ラジオ日記

の山の上に雨が降る、16号の塩害をうけ枯れた街路樹が風に大きく揺れる、なんともやりきれない気持ちになりました。被害にあわれた方の中にはマイクを向けるとご自分の経験を話してくださる方がいます。「大事な書類は必ず高いところにあげておくこと」「小さな懐中電灯ではだめ用意するなら大きめのものをでも今回役にたったのはランタンのほうが停電には有効」「枕元には靴をおいておく方がいい、ガラスが割れたり、部屋の中でも何が落ちているかわからないので歩くときに怪我をするから靴は必需品」「食料は3日分用意するといひ、

3日あればなんとかなるから、近くのコンビニのお弁当も商品が入らなくて何にもなかったもの」。参考になれば、誰かの教訓となれば、と教えてくださることは、決して他人事ではないということをとどのぐらい思えるでしょうか？今回の台風被害を通してよく耳にすることは「香川は災害には縁がないところなのに・・・」ということですよ。何かがおこってから気がつくことが多くあります。本当は起こる前から準備できていればいいのですが……。これができないのが「人」なんですか？

台風被害・高松の町



高松市香西周辺のゴミの様子



香西町の橋の下で水をくみ上げています



高松市福岡町の様子



琴電志度線の線路